

# 2023年度 こどもの木かげ・玉成幼稚園 自己評価・学校関係者評価

《こどもの木かげ・玉成幼稚園の自己評価》

## 1. 基本理念・保育方針

### ■こどもの木かげ 2002 基本理念

『汝らは、地の塩、世の光である』  
(マタイによる福音書5章第13節—14節)

キリスト教の愛の精神を基とし、幼な子が、自ら生きる力を高め、豊かな個性を育むことをめざします。

こどもの木かげ(玉成幼稚園・野のはな空のとり保育園)では、0歳から就学まで一貫した保育方針にもとづき子どもの育ちに取り組みます。

### ■玉成幼稚園 保育方針

個の生活と集団での生活がバランスよく営まれるように配慮しながら、友だちや周りの人たちに受け入れられていることを意識し、お友だちとの相互交渉を通じて「ともに生きる喜び」を身につけられるように育てていきます。

保育は、時間と場所の提供であり、子どもの傍らには子どもを励ます保育者がいて、イメージや想像力をたっぷりと与えてあげられる保育の時間と、子どもが自分で遊び、自分で学ぶことができるように工夫された環境の中で保育の流れをつくっていきます。

こんな子どもに育てほしい・・・アルウィン学園のめざす子ども像

①生きる力の礎である「自らの力で探求ししながら人とのかかわりをとおして生きる喜びや自己実現が達成」できるように

②「一人一人が違ってよい」興味や得意なことを伸ばし個性豊かになれるように

③遊びをとおして感性や知的能力・創造性・社会性を体得できるように

## 2. 活動状況と自己評価

### 【基本事項】(こどもの木かげ共通)

◆子どもたちが、自らの力でとりくむ姿勢が育ち、友だちとのかかわりを高め、育ち合っているか

日常生活や遊ぶ場面において、子ども自身が物事に対して立ち止まり、感じ、考え、試行錯誤のできる子ども主体の保育に努めた。

◆子どもたちに豊かな感性が育つようなとりくみや自発的なあそびをとりくめるように保育をおこなってきたか

整然としているからこそ心地よく過ごす時、雑然としているけれど自由感にあふれた場所で安らぐ時、双方に対応した遊びを深め、充足できるような環境構成を整えた。保育環境により子どもに快いものを与え、意欲的な日々の生活が過ごせるよう配慮してきた。

### 【重点的に取り組む事項】(今年度の事業計画から)

◆建学の精神を礎に、保育センター木かげと玉成幼稚園の教育理念や基本方針を明確化させる。

全職員の協働の下、教育課程は編成され、4月からはそれに基づき、年間・学期・月・週・日案を学年ごとに指導計画をたて、創意工夫を促し、教育課程の内容を読み取りながら、全職員で日々の保育を行っている。その過程が大切と捉え、教育者一人ひとりの保育観や子ども観、自分たちが行ってきた保育の意義やその根拠などを明らかにして、会議等で話し合い何よりも「子どもたちにとってよい保育」を実践するよう努め、試行錯誤しながら、日々の保育を繰り返した。

◆幼稚園の教育理念、方針を全教職員が共通理解し、教員同士のコミュニケーションをとり、多種多様な特性を持った者たちが、互いの良さを認め合い、生かし合いながら、生き生きと教育活動に取り組めるような体制づくり。

長時間の先生一人を含め、教職員全員での全体会を中心に、各学年クラスごとの振り返りの時を大切にしたい。キャリアの有無にかかわらず各自の力が出るよう意見交換ができるような雰囲気づくりに努めた。変形労働時間での働きは慣れるまで戸惑うことも多かったが時間外勤務は減少できワークライフバランスの実現に近づけた。

◆より丁寧な子ども支援・保護者支援を行う。

日常の保護者とのやりとりを丁寧に行い、保護者のニーズをしっかりと捉え、子ども中心に共に考え、協力し合い解決できるよう取り組んだ。園だよりや懇談会、個人面談、保育参観、行事、父母の会などを通して、幼稚園での取り組みを保護者に具体的に伝え、連携していくように努めた。子どもの姿をしっかりと捉え、教師全体で子どもの様子、成長等を情報交換し、具体的な子どもへの援助、個別援助の実践を行い、ケースカンファレンスの内容や援助の具体策などの確認を行い、園全体で子どもの育ちを支えていくように保育を行った。

### 3. 今後の課題、取り組んでいきたいこと

- 1 さまざまな子どもたちの姿をしっかり捉え、個別支援のプログラムを作成し、加配・支援センター・ケースカンファレンス等との繋がりを大切にする
- 2 開かれた幼稚園を目指し、地域とのつながりを広げ深めていきたい
- 3 子育ての支援センターとしての役割が果たせるよう、短時間・長時間の子どもを区別なく誰もが利用できる預かり保育としての機能を検討したい、土曜日の活動も検討したい
- 4 確実な人材確保ができるよう働く教職員が満足できる環境を構築していきたい
- 5 プレクラス（ふたつの芽）の充実・満三歳児クラス設立の実現

#### 【運営委員（学校関係者評価）の評価】

##### 1 当年度の活動状況について

新しい園長の指導の下、玉成幼稚園としての教育全体を見直し、新たな教育課程を編成し保育内容の充実を図る一年であったことが確認された。その中で、子どもの豊かな感性を育て、自発的なあそびを支える環境づくりについては、全教職員の努力と協力により多くの成果をあげることができた一方、標準時間保育と長時間保育のスムーズな連携等については課題も残っており、改善への試行の継続中である。日々の保育とともに、子育て支援等では、その意義を自覚し、地道に取り組む姿勢が続けられ、園の特色となっているととらえられた。

##### 2 今後のとりくみ

様々な職員研修に積極的に参加してその学びを深めたことは、保育内容の質的向上に直結したものと思われるが、今後はより幅広い視野で研修内容を選択し、そこでの学びを全教職員に還元していくことを期待する。長時間保育への需要が多くある現実において、標準時間保育と長時間保育の双方の良さを生かした保育カリキュラムの充実に早急に取り組むことが望まれる。近年、多くの園が取り組んでいる「満3歳児保育」について、その内容を充分検討したうえで、本園における可能性を模索していくことが必要だろう。

##### 3 総合所見

新園長とともに、新たに加わった教員も含めた全教職員が一体となってスタートを切った玉成幼稚園が、その理念を確認し、確実な歩みを進めた一年であった。保育内容の見直しは、保育方法の見直しでもあり、基本を大切にしながら進められたものであると思われたが、長年、地域からの信頼を得て培われてきた玉成幼稚園の特色も大切に、進化すべきものと守り続けるべきものを見極め、今後の保育の具体的な展開を広く社会に発信し、その存在が確かなものと受け止められる工夫をしていけるようにと願っている。